

令和4年度学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
--------	---

重点目標	1.才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2.人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3.健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4.国際教育：国際的視野に立って考え、行動する力を養成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	卒業生	1名
	学識経験者	4名

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①生徒の進路目標達成に向けて主体的に学ぶことができる環境を作る。ICTを活用した授業展開により学びの幅を広げていく。 ②進路目標、進路を含めた自己実現に向けた計画策定等を行う。 ③各種資格の取得(英検・GTEC・TOEICなど)を推進する。 ④自学自習を行う自習室の充実化など授業だけではなく、学習を習慣化できる環境作り、働きかけを行う。	①教員が教材研究を積極的に行うことで授業力向上に努めているか。担任をはじめ進路指導部が中心となり、模試等の分析を行い、フィードバックし生徒が現状把握できる環境を作ることができているか。ICTを活用する授業展開を実践する取組みがされているか。 ②進路目標達成に向け、関係教員(担任・学年団等)で適宜、情報共有し、生徒に進路についてアドバイスしていく体制ができているか。 ③パワー・イングリッシュ・プロジェクトの実践・取組みにおいて、資格取得を推進し、計画的に取得ができるよう環境作りができているか。その他の資格試験についても積極的な取組みを促すことができているか。 ④生徒が掲げる進路目標達成に向けて学習計画および学習時間の管理等を工夫できるようアドバイスを行うことができているか。	①各教員の業務内容を整理し、授業準備を行う時間を確保する。分掌体制としても模試等の分析に力を入れ、担任とリンクし進路指導にあたる。各大学の入試に向け入試データ分析研修等に参加できる機会を作る。ICTを積極的に活用できるよう実践例を周知する。 ②進路講演会、進路相談等のイベントを積極的に実施し、生徒が知るべき大学情報を収集できる機会を作る。担任からも入試情報について、生徒に直接伝達し生徒の大学進学に向けたモチベーションに向上に努める。 ③各種検定の周知を積極的に行う。また、英検等をはじめ、校内でも受験ができる体制を整える。 ④学習室の充実化を図り、授業時間外でも積極的に学習に取り組める環境を整える。チューターをはじめ質問対応ができる体制をよりよくする。また、スタディサブリを活用できる環境も作る。	①分掌業務等の整理を行ったことで教材研究の時間を確保し、工夫した授業展開ができている。ICTの活用については、プロジェクト等を活用する教員は増えてきた。進路指導部・学年主任が中心となり、模試試験の分析結果から個々にフィードバックし、課題の整理、克服に向けた取組みができる環境を作っている。 ②進路イベントを積極的に行うことで生徒が進路の方向性を精査し、担任との面談等を通して大学についてより知る機会を作っている。 ③各種検定の取得状況は担任が把握し、大学受験等でも活用できるようアドバイスしている。 ④リクルート社「スタディサブリ」については、補完的な学習ツールとして活用するよう周知している。	①例年10月に実施している授業評価アンケート結果、ICT活用状況の確認を含め、教員自ら現状の課題を確認、改善に努めているか。模試試験の分析データについて生徒個々にフィードバックし、進路目標達成に向けた対策を講じることができたか。 ②各種進路行事・担任との面談等を通して、目標とする大学受験に向けた主体的な取組みができているか。 ③資格取得の積極的な取組みを促すために、有益な情報伝達が明確にできたか。 ④学習室の活用状況等の周知をはじめ、計画的に学習習慣を確立し、自主的な取組みができるような環境づくり、働きかけはできているか。	①各教員が授業評価アンケート結果をもとに現状把握を行い、より良い授業展開ができるよう取り組んでいる。今年度もICT研修については、全体では実践できなかった。模試試験のフィードバックは担任が面談を通して実施し生徒の進路目標達成に向けて効果的なものとなった。ICTを活用した授業実践は教員間で温度差がある子とは否めない ②今年度は昨年より大学進学実績が低迷する形となっている。とりわけ高校卒業程度といわれる2級には全校で40%以上、また、準1級の取得者も年々増加傾向にあり特に高校2年生では27名(学年の5.2%)が準1級を取得している。大学入試にも英検利用が進む中、今後一層多くの生徒が上位級を手にするよう、指導していく。 ④学習室の活用状況については、定期考査前には300名を超える日もあり、学習意欲の向上が見られる。部活動に所属する生徒も部活動前後の時間で活用し文武両道を体現している。	B	①教員間で研究授業をさらに実践していくなど情報共有をより行っていくことで学校全体の活性化にもつながる。生徒が求める志望校の合格に向けて学校としてもどう伸ばしていくべきかのプランニングをさらにしていく必要がある。ICT活用については、次年度は研修の実施や実践例の紹介等、全教員が積極的に活用できる体制を整えていきたい。 ②引き続き、積極的に進路講演会をはじめとする進路イベントを実施していく必要がある。進路情報については、教員間でも情報共有を積極的にを行い、生徒に伝達できるよう努める。 ③パワー・イングリッシュ・プロジェクトを掲げ英語検定の全員受験に取り組んでいる。取得状況の分析を行うとともに、進路で有意義な活用ができるか情報を生徒に積極的に伝達していく状況を作っていく。 ④学習室の活用で生徒の学習意欲が非常に高まっている。さらに良い環境作りができるよう検討していく。
2	①日常生活におけるマナー指導、身だしなみ、学習を継続して行う上での基本的な生活習慣の確立を目指す。 ②生徒が活躍できる機会、主体的に参加する生徒会活動や課外活動の充実化を図る。 ③生徒のコミュニケーションスキルが向上できる環境づくりを行う。	①生徒が公共交通機関や自転車での通学時において適切なマナーを理解、実践できているか。 ②各行事で生徒会活動や部活動をはじめとする課外活動の充実化が図れているか。 ③教員が様々な活動を通して生徒と積極的にコミュニケーションをとる機会を作ることができているか。	①校内外ともに生活指導部を中心に登下校時の通学路指導等で現状把握を行っている。ホームルームや学年集会を通して指導を行いより良い環境を作る。 ②文化部の部活動発表会をはじめ、ボランティア活動の企画等積極的な参加を呼び掛ける。 ③定期的に面談を行い、生徒に寄り添った形で指導し、意欲的な活動を促す。	①登下校時の通学マナー等について指摘を受けることがある。全体に指導が必要な状況である。また、生活指導部を中心に校内外ともに現状把握に努める。 ②文化部の発表会の開催、ボランティア活など充実した活動ができている。 ③生徒とコミュニケーションを取る中で、現状把握を行うことで、前向きに取り組むことができる環境ができきている。	①登下校時における通学路指導等、交通マナー等が守られているかの状況把握に努める。また、生活指導部を中心に校内外ともに現状把握に努める。 ②様々な工夫を凝らし、生徒が充実感を持つ活動ができているか。 ③現状把握に努める中で、学習や課外活動等、積極的な取組みに繋げることができているか。	①特に登下校時の通学マナーについて、課題はあると言える。ホームルームでは担任から周知し、改善に努める。 ②生徒会活動において、文化部の発表会等を企画し、生徒が充実した取り組みができていることは非常に良かった。 ③担任、学年団の教員も積極的に生徒と関わり、課題抽出、ケアを行うなど生徒が前向きに取り組める働きかけをしている。	B	①通学マナーをはじめモラルを問われる課題が多かったのはすぐにも改善していくべき課題と言える。生徒がどんな状況でもしっかりと判断ができるように指導を行っていく。 ②ここ数年間取組むことができなかった行事の企画なども積極的に行っていきたい。地域交流も積極的にやっていく。 ③個人での面談を通して積極的にコミュニケーションを取れる環境は作れていた。継続的にやっていく。その中で進路指導も早いうちから行っていく。
3	①文武両道が実践できる環境を整える。 ②担任を中心に様々な相談ができる体制を充実させる。 ③コロナ禍における対応	①学習面、部活動の文武両道が実践できる環境が整っているか。現状における学校生活状況を把握できているか。 ②面談等を通して、生徒が抱える悩みの解決や精神的な支援ができているか。 ③校内における感染症対策は講じられているか。	①部活動においては少なからず制限がある中で活動となるが工夫を講じ指導を行う必要がある。学習においては時間管理をはじめ効率・効果を上げていくための工夫ができる環境を作る。 ②SNS講習会を実施するなど生徒が抱える不安を未然に防ぐ取組みを行っている。 ③学校から具体的な感染症対策における周知をおこなっていく。	①大会が開催される中で良いモチベーションで練習に励んでいる。文武両道を実践する中で時間の効果的な活用、学習時間を確保できる体制を作っていた。 ②担任が面談を通して、直確状況把握を行っている。 ③学校行事をはじめとする各行事においても感染症対策を行っている。しかし、感染者は一定の割合で確認されている。	①部活と学習ともに前向きに取り組む姿勢が見られるか。隙間時間の活用など自主学習に意欲的に取り組むことができる環境が確保できているか。 ②生徒との面談等を通して実情の把握ができているか。特にSNSにおける問題点等の実態を理解・把握できているか。 ③学校内での周知方法、感染症対策としての備品等を含め、準備ができているか。また、現状において工夫を講じて生徒活動の充実化が図られているか。	①部活動は計画的に活動を行っている。文武両道の実践に向けて、生徒が自ら考え、主体的に行動できるベースを確立している。その中で多くの部活動が関東・全国大会出場など成果を上げている。また、特進アスリートクラスから医学部や難関大学への合格者を輩出するなど文武両道を体現できる生徒が増えている。 ②生徒の現状把握は担任を中心に学年団も協力する体制を整えている。SNS使用においては少なからず課題はまだ残る状況である。今後も適宜、課題解決に努めていく必要がある。 ③学校行事においては工夫を講じる中で行う形を取った。生徒の意欲的な活動が実践できるよう、感染症対策における周知を徹底していく必要がある。	B	①学習の習慣化とともに部活動等においても成果が出ている。また、模範となる上級生の取組みを参考にしている下級生の意識レベルも高まってきている。今後も継続した取組みをみていきたい。 ②SNSとの向き合い方について、現在の状況把握に努めるとともに、他校の取組みも参考に良くしていく必要がある。 ③生徒会活動においても様々な工夫を講じていくとともに、これを機に行事の実施方法の見直しを含めた検討を行い、より充実した活動となるように努めていきたい。
4	①英語力強化につなげる ②学校行事(希望生徒対象)として行う語学研修の充実化を図る。 ③帰国子女の受け入れを積極的に行う。	①実践で活用できる英語力・会話力を身につけることができるか。 ②海外研修は今年度も中止の措置を取るが、オンラインで実施する工夫など生徒が学びを得る環境作りはできているか。 ③帰国子女の受け入れにあたり、募集を含め、積極的な活動がされているか。また、帰国子女と積極的にコミュニケーションを取ることができているか。	①全教職員が英語力強化に向けて英検の全員受験をはじめ積極的な取組みを促す環境を整え、モチベーション向上に努める。 ②今年度はコロナ禍の中で海外語学研修の実施ができなかったため、学校来校型とオンラインでの研修など生徒の活動の幅を広げる。 ③帰国子女生徒と交流する中で、英会話力向上に向けたモチベーションアップを図る。	①International Arena(日本語禁止部屋)を訪れ、ネイティブ教員と積極的に会話をする生徒が多く見られた。英検2次対策についても英語科教員を中心に資格取得に向けた積極的な取組みを行っている。 ②グローバルサマースクールへの参加者も数多くおり、英語力向上を目指す高い意識の持つ生徒が多い。 ③帰国子女との交流が英語を学ぶモチベーションにつながっている。	①英検の取得状況を整理し、大学受験の活用など積極的に取り組む環境はできているか。 ②語学研修の取組みを教員が情報共有し、生徒に伝達するなど英語を学ぶモチベーションにつながっているか。 ③帰国子女と交流することで英語を学ぶモチベーション向上につながっているか。海外在住日本人への認知度を高める具体的な活動ができたか。	①担任の指導状況からも英検取得に前向きな姿勢がみられるなど等、英語力向上に努める生徒が増えている。 ②海外語学研修は中止となったが、英語力向上への意識は非常に高い。夏休みに実施した各種行事においても数多く参加があった。 ③帰国子女との交流、情報交換により英語を学習していく上でモチベーション向上につながっていると言える。	B	①International Arena(日本語禁止部屋)ではネイティブ教員が英語に興味を持つ生徒が増えるように工夫を講じている。英検において大学受験をはじめ進路活動にも活用できる情報等を周知していくことで前向きな姿勢がみられている。 ②夏休みのグローバルサマースクールをはじめとするプログラムの充実化を図っていく。 ③帰国子女と交流することで英語への興味・関心、モチベーションの向上につながっている生徒が増えている。今後も現状においてできる限り積極的に募集を行っていく環境を確立していく。

学校関係者評価	実施日 令和5年3月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	①今年度は昨年度と比較し、大学の合格実績は大変厳しい状況となった。現状の課題を分析し、次年度は生徒の志望校合格に向けた学習指導、進路指導を行ってほしい。一方で特進アスリートクラスから初の国立医学部合格者を輩出するなど非常に良い結果も開けた。良かった点は次年度も継続してもらえるよう頑張ってもらいたい。 ②大学入試改革での進路実績状況の分析を含め次年度生徒がより積極的に学習に取り組むことができる環境を作ってもらいたい。 ③各種資格の取得に向けて、よりモチベーション向上につながる情報を伝達するなど工夫をしてほしい。 ④学習室の利用者が増えているという個は学習意欲向上の現れだと言える。より良い環境作りをお願いしたい。 評価：B
学校関係者からの意見・要望・評価等	①通学マナーにおいては学校でも継続的な指導をお願いしたい。生徒一人ひとりが自覚ある行動を促す環境作りを行ってほしい。 ②各種行事の開催など、生徒が輝ける場所を提供してもらえるよう工夫を講じてほしい。 ③生徒の成長を考え、前向きに取り組むことができるよう積極的な発信を行ってほしい。 評価：B
学校関係者からの意見・要望・評価等	①学習室の活用状況については、非常に素晴らしい状況であると言える。文武両道を実践する生徒が数多くいることは非常に良い状況であると言える。特進アスリートクラスから国立の医学部合格など素晴らしい実績も残している。現状に満足することなく、前向きに取り組む環境を学校一丸となって作ってもらいたい。 ②SNSの活用においては、どの学校においても課題もあるのが現状である。講習会の実施などを通して、問題や課題に向き合う機会を作ってもらいたい。 ③いまだ先が見えないコロナ禍において、学校関係者の健康管理を徹底してほしい。その中で生徒に充実感を与えてもらえるような行事作りなど工夫をしながら実践してほしい。 評価：B
学校関係者からの意見・要望・評価等	①パワー・イングリッシュ・プロジェクトを実施していく中で、英検の取得状況をはじめとする具体的な成果を検証し、更なる向上を目指してもらいたい。大学進学に向けての1つのツールとして、活用できるよう向上を目指してもらいたい。 ②今後も語学研修をはじめコロナ禍においてなかなかできなかった様々な学びが得られる企画を提案してもらいたい。 ③生徒が英語に興味関心をさらに持てるような働きかけを積極的に行ってほしい。帰国子女募集についても、できる限りの活動を継続してほしい。 評価：B

令和4年度学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平中学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
--------	---

重点目標	1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立つて考え、行動する力を養成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	卒業生	1名
	学識経験者	4名

学校自己評価					年度評価 (3月)			
年度	目標	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	①IB授業における学びに加えて主要5教科においては基礎知識の習得に向け指導を行っていく。 ②校外学習や体験学習(プログラム)を通して自ら考えることの基盤作りを行う。 ③各種資格取得を目指す。 ④自学自習の定着を図る。	①アクティブラーニング手法を用いた授業展開により、主体性を促す授業展開となるよう努める。また、基礎知識の習得について授業内で工夫を行う。学力推移調査の結果を参考に新たな目標設定をしていく。 ②体験型プログラム(校外学習・体験学習)で主体的な学びが得られる環境を作っていく。その中で調べ学習を行い、まとめる・発表する・考察する、発表の場を設けることにより生徒が主体的に学べるようにする。また、発表の場はプレゼンテーション能力の向上にもつなげるようにしていく。 ③PEPの一環として行っている英検をはじめ、各種資格取得については積極的な呼びかけを行う。また、検定対策も行える環境を整備する。 ④担任を中心に日々の学習計画や現状における時間の活用方法などアドバイスを行う。そして自主的に家庭学習や予習・復習を含む自主学習を行うよう指導していく。	①生徒が興味関心を持って授業に臨めるようICTを積極的に活用するなど、知識習得に向けて幅広い授業展開を実施する。教員においては、教材研究をはじめ、教科内での情報交換についても積極的にを行い、授業の質を向上していけるよう努める。特に主要5教科においては基礎基本の習得、定着に向けた取組みを実施する。 ②コロナ禍で校外学習や体験学習は工夫を講じる中でできる限りの対応をしていく。生徒が主体的に学ぶことができる環境を作っていく。 ③英語検定等の全員受験をはじめ、各種検定への積極的な取組みを担任、学年団等から促す。各種検定に向けた対策については各教科および担当教員が中心となり行っていく。 ④フォーサイト(スケジュール帳)を活用し、活動計画をそれぞれ立案していくことを習慣化させる。また、学習室やSHシステム(自動問題作成システム)の活用など各自の課題克服に取り組むことができる環境を作る。	①特にIB授業を展開していく中でICTを積極的に活用することで視覚的な観点を含め学びの幅も広がっていると言える。主要5教科の知識習得の観点においても工夫した授業展開がされている。 ②できる限りの工夫を講じ、行ける範囲での校外活動となっているが、生徒には大変有意義な活動となっている。 ③特に英検受験においては、多くの生徒が積極的に受験する機会を作る環境を作っている。 ④フォーサイト(スケジュール帳)の活用については担任が生徒指導に活用し現状把握を行っている。SHシステム(自動問題作成システム)および学習室を活用する生徒もおり、勉強に対して高いモチベーションを持つ生徒も増えてきている。一方で学習習慣の確立を含め課題を抱える生徒もまだ多いのが現状である。	①教員は10月に実施している授業評価アンケートをもとに自身を客観的な側面から検証している。その中で、授業展開についても改善に努めていくことを求めている。 ②コロナ禍において、活動に制限がある中でも生徒の主体的な学びの場を提供するために工夫を講じている。 ③各種検定に向けてあらゆる角度から積極的な取組みを促す環境を作ることができている。また、取得に向けたフォーサイト体制の構築、モチベーション向上につなげることはできた。 ④フォーサイト(スケジュール帳)による現状把握、生徒の学習習慣の構築のための働きかけはできている。そして、生徒の主体的な取組みを促すことができた。	①ICTの活用する中で生徒の興味を引き出す授業展開が増えていく。あわせて基礎知識を学ぶ習慣をつけていくための指導も行い課題克服に努めている。学力推移調査の結果についても、上位層は更なる学力向上を目指す環境を作り、下位層について学習習慣の定着を図るとともにフォローできる体制を作っていく必要がある。 ②工夫を講じ、体験学習や体験型プログラムを実施し、生徒の良い学びの機会となったと言える。特に中学3年生のコミュニティープロジェクト発表会はプレゼンテーションの質も年々向上していると言える。 ③中学校においては、全校で96.3%の生徒が英検(5級以上)を取得した。2年生は準2級以上の取得率が昨年の36名から59名と大幅に増加している一方で、1年生は例年よりも英語を苦手としていた生徒がやや多く取得率が昨年度に比べて減少しており、今後さらに丁寧な指導をすることで、全体の英語力をさらに上げていくようにしていきたい。 ④生徒の主体的な学び、意欲が非常に高い生徒は増えている。その中でもまだ学習習慣が確立できず、不安を抱える生徒もいる。各教員も授業だけでなく、授業外でもフォローできる体制を整えていき、課題が克服できるよう整備していく。	B	①IB授業もより工夫が求められる。生徒主体的な主体性を大切にしながらも、学習習慣、基礎知識の定着もたいせつにしていきたい。また、学力推移調査や定期考査の結果をもとに学習方法のアドバイスを行いモチベーション向上に繋げられるよう促したい。 ②次年度は、体験学習・体験型プログラムもできる方向で検討していきたい。その中でも現状においてより良い生徒の学びに繋げることができるようにしていきたい。 ③資格取得に向けたモチベーションを高めるために高校の取組み、大学進学に向けての必要性など具体的に伝達していく。 ④具体的な学習計画ができるよう、担任をはじめとする教員からアプローチを行っていく。その中で教員間でも密に情報共有を行うことを大切にいく。
2	①学校内外問わず、日常におけるマナー指導を行うとともに基本的な生活習慣を確立するよう促す。 ②生徒が主体的に企画し、多くの参加が積極的に行われる生徒会組織を作る。 ③コミュニケーションスキル向上を目指す取り組みを活性化させる。	①学校における校則の遵守、挨拶の励行などマナー指導について担任等を中心に行うことができている。また、交通マナーを守り、交通事故防止対策を徹底できている。 ②校内外でのボランティア活動の企画等に生徒が積極的に参加し、自らの活動の幅を広げることができている。 ③教員が個別面談等で生徒の現状把握に努めている。また、し生徒と積極的にコミュニケーションをとる機会を作ることができている。	①校内外の巡回指導、特に登下校時の通学路については定期的に現状把握に努め、指導を行う体制作りをする。 ②できる限りの工夫を講じる中で、ボランティア活動やイベントにおける生徒が活動の幅を広げられる企画を作っている。 ③現在の生活や現状に不安を抱えているか等、生徒と会話をする中で把握を行う。	①公共機関の利用におけるマナーについて、外部から指摘を受ける状況があった。 ②コロナ禍で様々な活動が制限されたが、文化祭の生徒会企画など、工夫しながら行うことができた。 ③普段から面談等を積極的に行い、状況把握を行った。学年によっては学年行事等での指示を英語で行うなど学びの場を作る工夫もしている。	①マナーについて根本的な理解を得ることができる体制を作ることができた。その中で生徒に自覚を促す指導ができていた。 ②生徒の活動の幅が具体的に広がる環境はできている。 ③生徒の現状把握ができていた。また、不安を抱える生徒へのフォロー体制を整えることはできている。そして、教職員間で情報共有し指導体制を確立することができた。	①公共機関を活用する際のマナーで指摘を受ける状況があった。全体に周知する中で、自覚を持つよう指導を行った。 ②地域交流を含めボランティア活動等は少ない状況だったが、授業の一環として生徒会企画を行うなど、活躍の場を作る努力はした。 ③面談等を通して現状を把握し、抱える課題克服に向けたアプローチを行った。担任だけではなく、学年としてもアプローチを継続していく必要がある。	B	①公共機関における交通マナー等、校外での指導も積極的に行う必要がある。 ②地域交流を含め、各種ボランティア活動において生徒が主体的に動くことができる企画を立案できる体制を作っていく。 ③個別面談等を通して生徒の精神面にアプローチし、現状把握に努めていく。
3	①体育・スポーツ活動を推進する。 ②教育相談を充実させる。	①各部で目標を掲げ達成に向けて積極的な取組み見られた。 ②生徒が不安に感じること等、現状把握に努めるとともに支援、指導体制が構築できている。	①様々な制限がある中で各競技の大会等の出場に向け目標を設定し、前向きに取り組む環境を作り出す。 ②生徒の状況把握に努めるために面談等を積極的に行う。その中で担任を中心にフォローしていく体制を作る。	①日数や時間に制限がある中でも工夫し一生懸命に目標に向かった取り組みがみられた。 ②状況に応じて個別で面談を行うなど状況把握に努めている。	①生徒が部活動をはじめとする課外活動で目標を掲げ、達成に向けた積極的な取組みはできている。 ②コロナ禍で抱えるストレス等、生徒の現状における心のあり方や悩みを把握し、改善への取組みを行う環境・体制を作ることができていた。	①公式戦で活躍する選手もおり、一生懸命に取り組んできた過程が結果として良い方向であらわれた。 ②生徒の抱える心の問題等を良い方向に向かせるために継続的にアプローチしていく必要がある。	①目標達成には計画性が必要と学んだ生徒も数多くいる。スポーツ活動を通じた人間的成長を求めることも重要視し、その中で充実した活動ができるよう継続的に指導にあたっていききたい。 ②教職員間で生徒状況の情報共有を行い、生徒が不安なく学校に足を向けることができる環境を作っていく。	
4	①実践的な英語力を身につける。 ②「SDGs」世界を共通テーマにグローバルな視点から課題をみつめる。 ③実践的な学びの機会を作る。 ④帰国子女生徒の積極的な受け入れにより活性化を図る。 ⑤IB(国際バカロレア)による学習効果の向上を目指す。	①授業で学んだ英語の知識を効果的に使い自分の考えを発信することができる。 ②世界を意識する・知ることで様々な事象を多面的に捉え、広い視野で物事を見ることができるようになる。 ③生徒が授業で学ぶ英語の知識を語学研修等で実践できている。そして、自らのスキルアップにつなげる機会を提供することができている。 ④帰国子女生徒が他生徒に良い刺激や影響を与えることができる。 ⑤MYP(中等教育プログラム)における学習効果がグローバル人材の育成につながる可能性がある。	①英語の授業では基礎知識の習得とともにプレゼンテーションを行う機会を作るなど、実践的な場でも活用できるようにする。 ②調べ学習として、世界で起きている様々な事象を多面的に捉えることの重要性を知る。 ③授業内で学ぶ知識をプリティッシュヒルズ語学研修等で実践する機会を作り学ぶ場とする。 ④海外在住経験や語学力の高い帰国子女と接することで英語力向上の意識に良い刺激を与えていく。 ⑤調べ学習やディスカッションなどアクティブラーニング手法を用いて主体的に学ぶ環境を作り、授業で実践できる場も作っていく。	①英語Gの授業において基礎知識と習得、IB英語はレポート作成やプレゼンテーションを行い実践的な英語力を身につけている。 ②各グループでテーマを掲げディスカッションを重ねた。各自、調べ学習を通して様々な問題に対して、主体的に取り組んでいる。 ③プリティッシュヒルズ語学研修やグローバルサマースクール等で英語を実践する場を提供した。 ④帰国子女との交流を通して、英語学習におけるモチベーション向上につなげることができている。生徒募集において、海外在住者への認知度を高めることができた。 ⑤授業展開にあたり教員間で情報共有し、質の高い授業展開につなげることができた。	①英語の基礎知識の習得ができていた。IB授業が実践的な英語力向上につながっている。生徒の理解力に応じた進捗設定および授業展開はできている。 ②探求型プログラムおよび授業展開を通して、生徒が主体的に学び課題に取り組む環境は作られている。 ③行事や希望者対象研修等で生徒の活動、学び、実践的な英語力向上の場を提供できている。 ④帰国子女との交流を通して、英語学習におけるモチベーション向上につなげることができている。生徒募集において、海外在住者への認知度を高めることができた。 ⑤授業展開にあたり教員間で情報共有し、質の高い授業展開につなげることができた。	①基礎知識の習得については、課題があるとも言える。今後もIB授業では生徒の主体性を引き出す中で実践的な英語力を身につけられる環境が整備されている。 ②調べ学習等を通して、生徒が主体的に学ぶ環境が整理されている。生徒が自ら考える機会が多く、課題を発見する力の向上にもつながっている。 ③英語を実践的に行う場だけでなく活用できるかという観点からも各種行事・研修においては有意義な場であったと言える。この機会を英語力向上に繋げていきたい。 ④帰国子女との積極的な交流において、英語力向上に高い意識を持つ生徒が増えてきたと言える。募集活動においては認知度も高まる中で希望者も増えてきている。継続していく必要がある。 ⑤IB授業において、様々な手法を教員間で情報共有し、授業の質も高まる状況となっている。今後も継続していきたい。	B	①基礎知識の習得状況・学力を図る学力推移調査等の結果を踏まえ、課題克服に向けた取り組みを改めて行う必要があると言える。IB授業においては継続して探求心・思考力、プレゼンテーション能力向上を目指す取組みを行っていく。 ②主体的な学びの場を各種プログラムによって提供してもらえ、非常に良いことだと言える。今後、大学入試に向けて、重要視される思考力や表現力の向上にもさらに力を入れていきたい。 ③英語を実践的に行う場では生徒自身が自分の現状と向き合える良い状況と言える。今後も新たなプログラムを取り入れるなど積極的に発信してもらいたい。 ④帰国子女の英語力を知る機会をモチベーション向上につなげる。募集活動においても今後の活性化を求めていきたい。 ⑤教員間でよりコミュニケーションを取る機会を作っていく。また、学校全体としてIBの本質を理解するように働きかけしていきたい。

学校関係者評価	実施日 令和5年3月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	①ICTを活用する中で更なる工夫を講じ、マナーリ化が行い体制を整えてほしい。教員研修や外部での研修をはじめ、教員の資質向上に努めてもらいたい。基礎学力の向上に繋げるには、習慣化が必要と言える。個別面談等でも生徒のモチベーション向上につながるアプローチをしてもらいたい。 ②今までのプログラムができていない状況ではあったと思うが、これを機により良い取り組みができるような体制作りの見直しを図ってもらいたい。 ③特に英検については取得状況からも学校全体の継続的な取り組みが成果につながっていると言える。今後は更に上位級を取得できるよう、対策を講じるなど工夫してもらいたい。 ④学習計画の把握をはじめ、生徒が個々に学習を前向きに行う状況は良くなっていると言える。あわせて、課題を抱える生徒についてのアフターフォロー体制を含め、今後の継続した指導をお願いしたい。 評価：B
	①昌平生である自覚を持ち、登下校時のマナー等について、もう一度見直しを図ってもらいたい。この点については継続した指導が必要となる。学年集会をはじめ全体に周知する機会を作ってもらいたい。 ②学校行事など生徒が活躍できる場を次年度はさらに作ってもらいたい。 ③生徒が抱える不安をフォローできる体制、働きかけを積極的におこなってもらいたい。担任だけではなく、中学学年団が協力してアプローチしてもらいたい。 評価：B
	①部活動等をはじめとする課外活動において生徒が目標を持つことの大切さを学ぶことができるのは非常に良い点だと言える。また、様々な面で活躍ができる状況は中学校全体に活気を与える。次年度も充実した活動が行えるようより良い環境を作ってもらいたい。 ②生徒とともに保護者とも共通理解を持って指導していくことも大切だと言える。今後も学校全体として生徒の学びの場をより良くするための働きかけを行ってもらいたい。 評価：B
	①英語力の向上を目指す生徒の取組みは年々意識が高まってきていると言える。授業展開を含み様々な工夫を講じて全体のレベルアップを図ってもらいたい。 ②主体的な学びの場を各種プログラムによって提供してもらえ、非常に良いことだと言える。今後、大学入試に向けて、重要視される思考力や表現力の向上にもさらに力を入れていきたい。 ③英語を実践的に行う場では生徒自身が自分の現状と向き合える良い状況と言える。今後も新たなプログラムを取り入れるなど積極的に発信してもらいたい。 ④帰国子女の英語力を知る機会をモチベーション向上につなげる。募集活動においても今後の活性化を求めていきたい。 ⑤教員間でよりコミュニケーションを取る機会を作っていく。また、学校全体としてIBの本質を理解するように働きかけしていきたい。 評価：B